

とちぎユースサポーターズネットワーク共同代表

岩井 俊宗

とちぎ
寸言



「新しい公共」という言葉を
ご存じだろうか。2010年

1月に当時の鳩山首相が施政
方針演説で打ち出した概念
だ。その後、「新成長戦略」、
首相の施政方針演説へと引き
継がれている。「新しい公共」
とは、「人々の支え合いと活気
のある社会をつくるために国

りを進めている。宇都宮市で
も来年1月、多様な主体の強
みを生かし合い、地域社会づ
くりにつなげていく「宇都宮
市まちづくりセンター」が開
所するなど、新たな動きが起
きている。

今年の漢字が「絆」であっ
たように、「繋がり」が見直
されている。社会全体では、
「縦割り・分業型の社会」か
ら「重なり合う社会」へと転
換しつつあると感じる。「重
なり合い」は従来、無駄や非

れる。

「協働」の概念が打ち出さ
れてから12年がたつ。市民の
「当事者」意識の変化を数値
化することは難しいが、公益
的活動に取り組むNPO法人
の認証数を一つの指標として

みると、1999年1月に0
だった全国のNPO法人は、
今年10月、約4万3800も
が存在している。NPOは「ボ
ランティアの集まり」「無償
で活動する人たち」とイメー

「新しい公共」の担い手に

効率の対象とされ、意識的に
避けるべきものになってい
た。しかし、「重なり合い」
は、人々の間に「共有」と「共
感」を生み、それが「安心」
を生み出す。その価値が、再
評価され始めていると思う。

査)。

民、市民活動団体、地域組織、
企業やその他事業体、政府が
一定のルールと役割を持って
当事者として参加し、協働す
る場である」という考え方だ。

「新しい公共」の担い手と
して、また社会の当事者かつ
創り手である市民としての社
会的責任に添えていくため、
我々NPOはより一層、力を
付けていく必要がある。そし

民、NPO・ボランティア、
企業、地域団体など「新たな
公」の担い手と行政とが相
互に連携・協働する環境づく

て、多くの市民の「共感」と
「参加」を受けながら、共に
温かい社会を創っていくNP

互に連携・協働する環境づく
く当事者になることが求めら

0でありたいと思う。

有給専従職員とい
るNPOは103
団体に上る(20
10年、県など調